

# 民主主義

信条・われわれは日本における真の民主主義の確立に寄与したいと考える。なぜなら日本が新たな独裁主義勢力の支配に屈したら再び民主主義に復帰することは不可能だからである。

日本の民主主義を育てる会  
東京都千代田区永田町2番地  
東京参議院 508-8424 蔵実  
TEL 508-8424 地善  
発行人 城善  
編集人 河和田 印刷株式会社  
東京都新宿区高田馬場2-6-5  
宛一部お送りください。

◆転載利用について◆  
無断転載はご容赦願います。本会にお知らせください。「民主主義」からの転載の旨を明示した転載紙を本会宛一部お送りください。

## 惰性的日中外交を排せ

東京外語大助教授 中嶋嶺雄



アジアの国際政治に大きな影響力を持つ米・ソ・中・日の四方国のなかで、米・日・中三方の指導者が変わった。なかでも中国の指導者交替は、あまりにも衝撃的なドラマを伴うもので

あった。ソ連の攻勢的な進出にたいして米・日・中が「太平洋横断的連携(トランス・パシフィック・コアリション)」ともいえる協同関係を形成しようというの、いわゆる「新太平洋ドクトリン」の基本構造であったことを想えば、皮肉にも、このドクトリンの対象であるソ連のみはブレジネフ体制の継続を誇示し、他の三方国、一九七七年に新しい外交的始動をすすめることになる。だが、ソ連VS.米・日・中という構図は、グローバルなパワーとしてソ連に對

抗せざるを得ないアメリカの對アジア外交の構図としては、アメリカにとりてきわめて都合のよいものであっても、それがそのままが国にとりても都合のよいものとはいえないところにある。なせなら、日本は国際関係の上でも、地政学の上でも、アジアにおいて、日・中・ソという独自の三角関係に直面してゆかねばならないのであつて、この点で、こと対中・對ソ外交に関する限り、対米追随ができないのである。日中平和友好条約交渉にからむ困難さは、

入りの平和条約という、これまでも前例を見ない固有な外交懸案として、アジアの国際政治のただなかのイシューとして存在しているのである。従つて、もしも「覇権条項」入りの日中平和友好条約を締結するのなら、わが国としては、對中外交のみならず、對ソ外交のあり方もよりわが国をとりまく国際環境の長期的な展望を十分に見きわめておかねばならない。それを国際関係のヴィジョンというこゝでもできよう。しかも、条約は「共同声明」とちがって、国家百年の計を卜するものであるから(だから国会での批准手続きが定められているのである)、このような条約を結んだ場合のわが国自身の利益についての見直し、国際的波紋や影響力、相手国の立場や信頼性ひいてはこの条約の「有効性」(周知のように、世界には「有効性」なき条約も数多く、条約を結んだがゆえにかえつて当事国関係が悪くなる場合もある)についての成算がなければならぬ。

ひるがえつて、「覇権条項」入りの日中平和友好条約を考えた場合、このような条件がすぐで

年末総選挙の結果、衆議院の分野は次のようになった。  
自民党……二六〇(二六五)  
社会党……一四四(一一二)  
公明党……五六(三〇)  
民社党……二九(一九)  
共産党……一九(三九)  
新自派……一八(五)  
無所属……三(〇)  
計 五一(四九一)  
但し欠一七

に呼応するように、当の中道路線に擬せられる公明・民社など各党の間でももちろん、自民党の中においてさえ「民意の方向は両極端志向の政治はノードであり、なにか新しい政治を志向している」などと言つて、この考え方を支持する声が出て来た。ところで中道といふ以上は、その前提として左右両派がなければならぬ。現在の政界には、たとえば

をさすものと考え他はない。けれどもタカ派とか右寄りとかいわれるグループの言動は、決して極端な主張を貫こうというものではない。たとえば自民憲法の制定一つをとり上げてみても、それは世界の現実を無視した占領軍の押しつけ憲法を再

本建設のため必要なことばかりである。従つて之等のグループを両極端の一端に見立てて右派と左派とつけることは、おのずから中道路線なるものの性格を示すことになる。すなわちマスコミや一部世論に迎合して、風当りを避け、政界における保身の道をとろうとするのが、いわゆる中道路線の正体ではなからうか

伸長に手を藉することによって歩み、民主主義国日本の崩壊を招く結果にならないであらうか。

## 中道路線の正体

熊谷太三郎 (参議院議員)

すなわち一方では自民敗退社会伸び悩み、共産惨敗に終つたのに対し、他方では公明・民社及び新自由クラブが一斉に躍進した。

この事実をとり上げ、マスコミや一部国民の間、之を中道路線の嚆矢として歓迎する色が見え、また政界でも之

検討して、独立国にふさわしい国家の基本法を考へようというのであつて、別に天皇制を強化しようというでもない。他国を侵略しようというのでもない。その他外交、防衛、教育等に関する主張のどれをとり上げてみても、真の民主主義国日

に成熟しているのだから、これまでも前例を見ない固有な外交懸案として、アジアの国際政治のただなかのイシューとして存在しているのである。従つて、もしも「覇権条項」入りの日中平和友好条約を締結するのなら、わが国としては、對中外交のみならず、對ソ外交のあり方もよりわが国をとりまく国際環境の長期的な展望を十分に見きわめておかねばならない。それを国際関係のヴィジョンというこゝでもできよう。

ひるがえつて、「覇権条項」入りの日中平和友好条約を考えた場合、このような条件がすぐで

この事実をとり上げ、マスコミや一部国民の間、之を中道路線の嚆矢として歓迎する色が見え、また政界でも之

検討して、独立国にふさわしい国家の基本法を考へようというのであつて、別に天皇制を強化しようというでもない。他国を侵略しようというのでもない。その他外交、防衛、教育等に関する主張のどれをとり上げてみても、真の民主主義国日

に成熟しているのだから、これまでも前例を見ない固有な外交懸案として、アジアの国際政治のただなかのイシューとして存在しているのである。従つて、もしも「覇権条項」入りの日中平和友好条約を締結するのなら、わが国としては、對中外交のみならず、對ソ外交のあり方もよりわが国をとりまく国際環境の長期的な展望を十分に見きわめておかねばならない。それを国際関係のヴィジョンというこゝでもできよう。

ひるがえつて、「覇権条項」入りの日中平和友好条約を考えた場合、このような条件がすぐで

ひるがえつて、「覇権条項」入りの日中平和友好条約を考えた場合、このような条件がすぐで

◆謹賀新年。今年もどうぞよろしく。ところで私の家に今年、五一七枚の年賀状が届けられました。この数は決してびっくりするほど多きではありませんが、といつて少い方ではないでしょう。そこで私はこの年賀状から、ある統計をつくってみました。

### 並木

◆昭和五十二年、昭和丁巳などいろいろな書き方があります。うが、とにかく「昭和」という年号を使つてゐるものが何枚あるかを、まず調べてみました。これは七六枚になります。これに對して一九七七年と西暦で書いてあつたのは四五枚で九〇にすぎません。

◆残り一〇〇枚、つまり一五〇は何も書いてありません。毎年、同じハンコで「賀正」「元旦」と矢印を押しつけている友人もあれば、元旦とさえも書いてないあわてもの友人からのものも混つています。この一五〇枚は果して「昭和」が好きなのか、それとも「一九七七年」組なのか、いまのところ不明です。

◆これでわかつたことは、昭和といふ年号を素直に使つてゐる国民が絶対的に多いという事実です。だから昭和が終つても、次に新しい元号が使われるのに何も不思議はないはず。ところが政治的に、思想的にいま元号問題がとり上げられようとしてゐます。

◆マスコミなど、左翼的歴史学者を動員して、国民を感化しようとするのですから困りものですね。元号存続は天皇制強化に通ずるとか、西暦に加えて日本の年号も覚えさせるのは面倒だとか、国際的に孤立するとか、元号反対論者のいい分は、全く子供だましのようなへ理屈です。

◆歴史的には、学問的に元号問題を論ずるには、この欄はあまりにもスペースが小さすぎるようです。今日は年賀状から、昭和を題材に受け入れている国民が絶対的に多いという事実を紹介するのに止めましょう。